

天国と地獄

「地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天、声聞、縁覚、菩薩、仏」これは人間生命を十種類に分類したものである。その淵源は仏法の生命観が基調になっている。始めにある地獄の「地」とは最低を意味し、「獄」は束縛され縛られた不自由を表す。つまり苦しみに縛られた最低の生命・境涯をいう。地獄の苦しみの経験を持つ人も多いのではないだろうか。

地獄と聞いただけで恐ろしさが込み上げてくるが、地獄谷の名所を持つ場所は日本全国に幾つかあるようだ。宮城県大崎市鬼首温泉の紫地獄、神奈川県箱根町大涌谷の大地獄、長野県下高井郡の地獄谷温泉、鳥取県琴浦町にある沢。長崎県雲仙温泉の雲仙地獄等。更に地名では愛知県知多郡、京都府木津川市、神戸市須磨区などに地獄谷がついている。

ここ登別温泉の地獄谷は観光名所として多くの人を集めている。直径約 450m の爆裂火山跡で、緑豊かな山々に囲まれ谷底には荒々しい土がむき出しとなっていた。その色も赤、黄、黒、白と様々だ。近付くと硫黄の香りが立ち込め谷の奥に行くと湯けむりがあちこちから上がっていた。これらの場所をよく見るとそこには草花一つ育たない不毛の地であり、まるで生き物を寄せ付けないこの世の地獄としか見えないのだ。しかしここからは良質で豊富な温泉が湧出されており温泉街のホテル、旅館に給湯されている。言わば恵みの湯であり宝物であるのだ。温泉大好きな日本人にとってここはまるで天国の場所なのかも知れない。



撮影 2015 年春

